

頼もしい子 ~心の宝物に満ちた学校~

令和5年1月27日

言葉からの知見 経験からの言葉

校長 尾崎 友美

先月、モーグル選手の堀島行真氏の講演を聴く機会がありました。1時間程度でしたが、大変心が動かされました。堀島選手は岐阜県出身。高校生の頃から国際大会で頭角を現し、20歳の時にはアジア大会の日本選手団入り。2018年に行われた平昌オリンピックでは、金メダル獲得の期待が高かったのですが、転倒により11位・・・。

失意の底にありながらも、堀島選手はメダリストと自分との違いは何かを探りました。メダリスト達に共通するのは、人間的にも素晴らしいことだったと講演では述べられました。自分自身は、スキーの技だけで言えば、8~9割は同レベルに届いている。しかし、人間力、学習力、コミュニケーション力は、彼らの2~3割にしか至っていない、そう自分で分析をしました。そこで、本を読んで学ぶ、子ども達にスキーを教

える、家族と過ごす時間を増やす、スキー以外のスポーツを楽しむなどこれまでしてこなかったことに取り組みました。

そして迎えた2022年北京オリンピック。北京までの世界大会では100%メダル獲得。オリンピックでも当然狙えるはず。この時の日記が、講演会場に投影されました。非常に生々しい記録でした。

「予選。何番目に滑るか。前に誰かが滑っていれば、それを見てコースを見極め選択する。

決勝1本目、6位から10位には入る。

決勝2本目、6位までには入る。

3本目、やってきたことを出すだけ。そしてゴールしてガッツポーズ。

たくさんの人に支えられてきたことを思い出せ。

スタートの前には、いつもの呼吸を意識する。4秒間で深く息を吸い、4秒間息を止め、4秒かけて息をゆっくり吐く。

いける。いける。力を出し切って最後はガッツポーズ。」

こういった言葉が日記には何度も何度も記されていました。何度も書いて自分に言い聞かせていないと緊張につぶされそうだと感じたのでしょうか。北京オリンピックでは2度涙を流したそう。1回は表彰台で。もう1回は予選の朝。起床し、シャワーを浴び、着替えようという時に、涙が流れていることに気付いた。オリンピック選手の味わう緊張は、私には到底想像できません。

タイトルの言葉は、講演の最後に堀島選手が言われたことです。様々な経験を言葉にすることで、課題を理解し、それらを克服することにつながられる、あるいは、経験からしか真の言葉は生まれない・・・ということでしょうか。緊張、プレッシャー、焦り、困難・・・叫び出したくなるような負の感情を、「何に緊張しているのか」「何が困難なのか」「どうすれば和らぐのか」「落ち着くためには何をしておくべきか」と言葉を使って明確にすることの重要性を改めて感じる講演でした。

「今日、僕がここで話したことを、学校の皆さんにも是非届けてほしい。」

堀島選手からのバトンをここに皆さんにお渡しします。

今号では、井原眞美江先生（わかくさ教室担当）、松久姫華先生（なのはな担任）にインタビューしました。

◇先生方には学校の特別支援教育を担っていただいています。今年度の指導や支援の中で、印象に残っている子ども達の成長は。

松久「私の学級では、元気っ子の時間（休み時間）に各自で遊んでいる4月でした。それが、今は私がいなくても互いに誘い合って、おにごっこやかくれんぼを楽しむようになりました。昼休みも同じ教室空間にいるけれど、各自で過ごしていましたが、今は自然にみんなで遊ぶようになりました。大きな成長だと思います。」

井原「わかくさ教室に『おはよう』と元気に入ってくるが増えました。『先週勉強したことを教室でやってみたよ』と教えてくれる時もあります。タブレットなどを使って自分に合う学習方法を見つけた子がいたこともうれしかったです。」

◇今後チャレンジしてみたいことはありますか。

松久「子ども達が急に怒ったり、悲しい表情になったりすることがあります。私にとっては急なのですが、必ず理由があります。その理由を理解できるようになりたいです。そして、話を聞いた方がいいのか、それとも自分で消化したり解決したりできるのを見守るのがよいのかを判断できるようになりたいです。」

井原「私はもっともっと個に合った教材・教具を作りたいと思っています。また、わかくさ教室と学級、保護者をつなぐ役割をもっと果たしたいと思っています。」

◇特別支援教育とは、と尋ねられたらどのように説明されますか。

井原「その子に合う、その子に必要な手助けをすることだと思います。そして、その子の力をめいっぱい引き出すこと。そのように答えたいと思います。」

松久「個のペースに合わせて教育すること、そして得意なことは伸ばせるようにすることだと思います。その子に合う教育することは当たり前のこと。私の学級にいる子ども達は、少人数で勉強の方が伸び伸びできて、人とのよい関わり方を学べる子ども達。彼らのよいところをもっと伸ばしていきたいです。」

◇では最後に、先生方が教員を志した動機は何でしたか。

松久「実は、幼稚園の先生になることが夢でした。小学生の頃から小さい子が好きで。でも、大学3年生の時の教育実習ですばらしい先生に出会って小学校の先生になろうと決めました。その先生は子ども達をよくほめていて、授業も楽しそうでした。私もそんな先生になりたいです。」

井原「とにかく学校が好きだったんです。学校に行けばいろんなことができる、大好きな友達に会える、新しいことが分かる、毎日わくわくです。そんな毎日が続くといいなと思って教員になろうと決めました。今でも毎日いろんな変化があります。それがとても楽しいと思っています。」

二人は教室で子ども達とコロコロと笑っていることが多いです。認め励ます言葉もたくさん聞こえてきます。子ども達も照れながらも嬉しそうにしています。「よさを伸ばしたい」という言葉に、二人の根本的な教育に対する姿勢を感じました。



「図書館祭り」を行いました。多くの本に親しむことができました。活動の一環で、昼休みに図書委員やボランティア児童が読み聞かせをしてくれました。連日たくさんの子供達が聞きに来ていました。私も楽しくて引き込まれました。ありがとう。

12月の主な行事予定

- 1日（金）サツキマス研修（6年）
- 5日（火）人権集会
- 7日（木）クラブ⑨（3年生見学）
- 8日（金）大掃除
- 11日（月）13日（水）14日（木）15日（金）個人懇談
- 12日（火）市教科等研究会（午前授業、給食あり）
※あさがお、1の2、5の2は5時間授業
- 16日（土）山県学園オープンスクール2023
（午前授業、給食なし）
- 21日（木）クラブ⑩（最終回）
- 25日（月）振替休業日
- 26日（火）2学期終業式

1月の主な行事予定

- 9日（火）3学期始業式
- 11日（木）命を守る訓練
- 23日（火）漫才ワークショップ（4年生）
- 26日（金）高富中学校入学説明会（6年生）
※予定が変更になることもあります。



井原先生 松久先生